

小笠原の豊かな自然を後世に残すために 島民参加による千尋岩ルートボランティア

小笠原諸島森林生態系保全センター



小笠原諸島には、貴重な野生動物が生息・生育していますが、過去に移入等された外来種がその分布域を拡大し、小笠原固有の生態系に影響を及ぼしています。

小笠原諸島の国有林では、外来樹種の薬剤注入や伐採、稚幼樹採取等の駆除を行っています。その中で多くのボランティアの方に協力をいただいています。



千尋岩（ハートロック）

今回は4月20日に行われた、千尋ルートボランティアについて紹介します。

千尋ルートは、人気スポットの千尋岩（ハートロック）へ至るルートとして、父島でも、利用者数の多いルートです。今回は、ルート沿いに繁茂してしまった外来種草本の駆除作業を種子が拡散しないように注意して行いました。今回集まっていたのは、募集



作業開始：シュロガヤツリ群生

人数20人に対し、満員御礼の20人の村民の方々。

まずは、ルートの入り口に群生しているシュロガヤツリ等を全員で駆除。その後、自らの体についた外来種の種子等を除去してから、ルートの作業へと入っていきます。

往路では、駆除対象の外来種を説明しながら、緩やかな登り道を進んでいきます。

途中で小笠原村の職員から、近自然工法というルートの修繕方法の説明がありました。自然の材料を使用し、自然に溶け込ませる工法に、説明されるまで修繕後である事に気づかなかつた参加者も多かつたようです。復路ではホナガソウ・セイロンベンケイソウ・デリス・オオバナノセンダングサ等の外来種を抜き取ります。花芽



駆除対象の外来種

や種子は摘み取り、大袋へ入れて持ち帰り、葉茎・根は再生できない様に乾いた岩の上などに存置します。

2、3時間に及ぶ作業の末、集まった外来種は大袋20袋ほど。軽バン1台に収まらないほどの量になりました。

小笠原諸島森林生態系保全センターでは、外来樹木であるアカギの駆除等の、事業的な外来木本の駆除も行っています。ルートの周囲の外来草本の駆除についても、こうしたボランティアの皆様の協力をいただきながら行っています。

こうした努力の結果、少しずつですが固有森林生態系が回復してきています。世界自然遺産にも登録されたこの小笠原の素晴らしい自然を後世に残すため、今後も邁進してまいります。



作業終了！！